

沖縄周辺重要水産資源調査（要約）

喜屋武 俊彦

本調査は国庫委託を受けて、昭和47年度から継続実施している。

1. 目的および内容

本県周辺海域の主要魚種であるアイゴ類、シロクラベラについて、漁獲物を購入し、それらを通じて成長と年令、成熟、産卵、系統群等の知見を得るため個体生態調査を実施し、また漁獲物の変動を知るため、水揚げ地における漁獲量調査を実施し、資源量等を把握して、これらを対象とする漁業の管理および合理的生産体系の確立をはかる。

なお、この調査を進めるにあたり、標本魚の購入、セリ帳の集計に便宜を与えて下さった関係漁協に厚く御礼を述べたい。

2. 要約

(1)勝連漁協セリ市場におけるアイゴ類、シロクラベラの水揚げ量調査を実施した。また標本魚を購入して個体生態調査（体重、体長、胃内容物、生殖腺調査）と市場での体長測定調査を実施した。

(2)関連調査として勝連漁協の矛突き漁業の水揚げ量調査を実施した。

(3)勝連漁協セリ市場における、昭和61年に水揚げされたシモフリアイゴは8.2トン、前年比75%で減少した。1日1隻当り水揚げ量は6.1kgで前年並であった。

(4)シモフリアイゴの日別水揚げ量では、4月から8月にかけて旧暦の1日から1週間以内に水揚げのピークがみられる。9月以降は大きなピークはみられない。（図-1）

(5)シモフリアイゴの体長、体重測定を年10回、226尾、胃内容物・生殖腺調査を188尾、市場での体長測定を年41回3,931尾実施した。

(6)4月に出現した大型個体は7月頃には少なくなり、同じく4月に出現した小型個体は翌年の大型個体へと順次成長する。（図-2）

(7)勝連漁協セリ市場における昭和61年に水揚げされたシロクラベラは5.9トン、1日1隻当り水揚げ量は4.5kgであった。

(8)シロクラベラの体長・体重測定を年8回、40尾、市場での体長測定を年32回、940尾実施した。（図-4）

(9)昭和61年の勝連漁協セリ市場における矛突き漁業の水揚げ量は27.3トン、水揚げの盛期は1月であった。魚種別にはシロクラベラが5.9トンで、総水揚げ量の21.7%を占め、ついでタコ類が2.7トン、9.8%を占めた。（図-3）

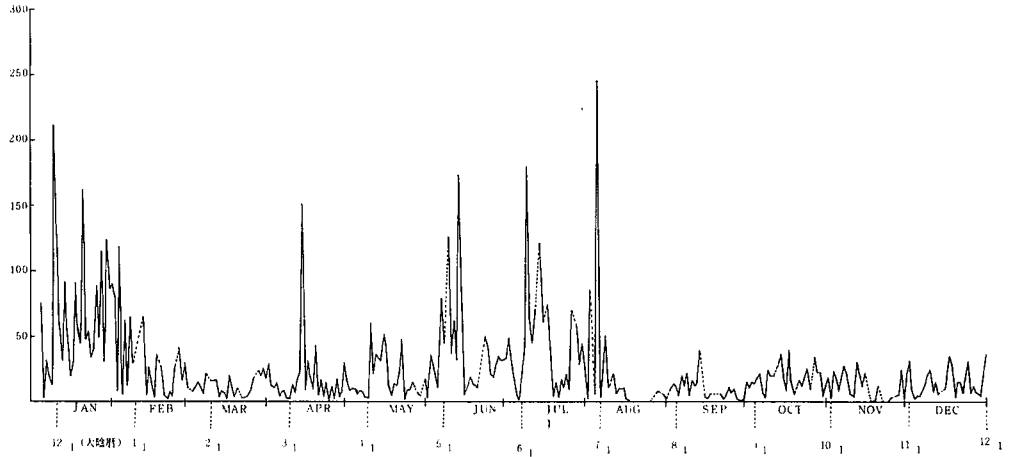


図-1 シモフリアイゴ日別水揚げ量 (勝連漁協)

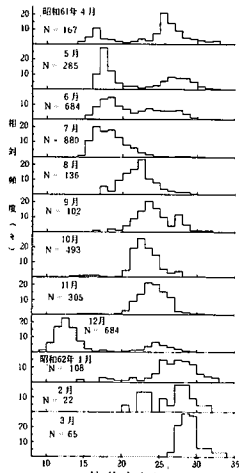


図-2 シモフリアイゴ月別体長組成

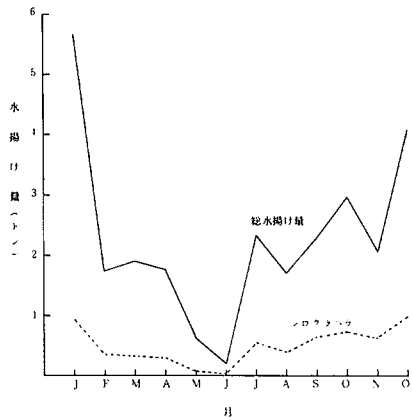


図-3 矛突き漁業月別水揚げ量 (勝連漁協)

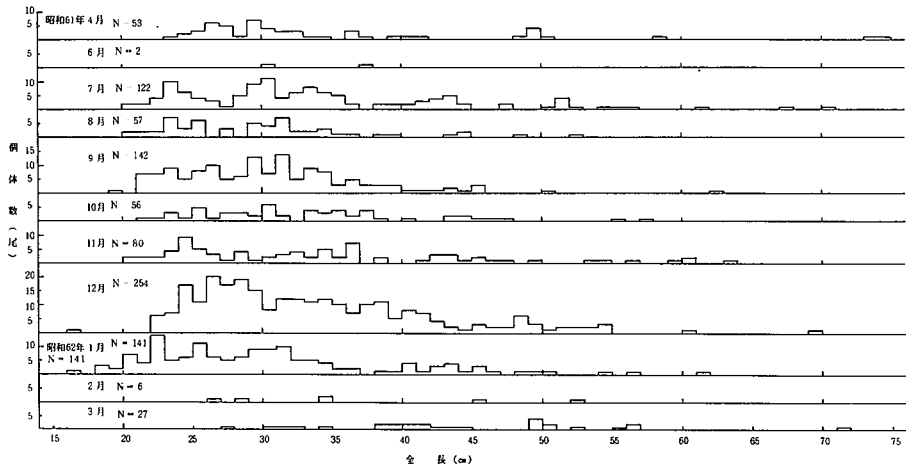


図-4. シロクラベラ月別体長組成